

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構 (JANPIA)  
第 82 回理事会 議事録

1. 日 時 2025 年 12 月 17 日 (水) 開会 13 時 00 分  
閉会 14 時 00 分

2. 場 所 東京都千代田区内幸町 2 丁目 2 番 3 号 日比谷国際ビル 314  
JANPIA 事務所内 会議室

※JANPIA 事務所内会議室を起点に、各出席者の音声や映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとし、出席者が一堂に会するのと同様の相互に十分な議論を行うことができるという環境を確保した上で実施 (ZOOM を利用)

3. 出席者  
理事長 二宮 雅也 [議長]  
理 事 岡田 太造 鵜尾 雅隆  
なお、理事長及び理事全員が ZOOM を利用して出席した。  
  
事務局 鈴木 均 (シニア・プロジェクト・コーディネーター)  
大川 昌晴 (事務局長)

4. 議 案  
第 1 号議案 2025 年度 活動支援団体選定の件  
第 2 号議案 2025 年度 緊急枠 (第 2 次) 資金分配団体選定の件

5. 報 告  
事業全般の運営状況について  
その他

6. 提出資料  
資料第 1 2025 年度 活動支援団体選定の件  
資料第 1 (別表) 2025 年度 活動支援団体審査結果一覧  
資料第 2 2025 年度 緊急枠 (第 2 次) 資金分配団体選定の件  
資料第 2 (別表) 2025 年度 緊急枠 (第 2 次) 審査結果一覧

## 7. 議事概要

13時00分開会、定款第42条により二宮理事長が議長となり、理事の現在数5名のうち3名が出席しており、本理事会は有効に成立していることを確認し、開会を宣した。

なお、議事録署名人は、定款第46条第2項、また監事の欠席を踏まえ、二宮理事長となることを確認した。

### (1) 議案審議

#### 第1号議案 2025年度 活動支援団体選定の件

岡田専務理事より、資料第1に基づき、2025年度活動支援団体の選定について、審査委員各位による申請書類一式の手元審査及び申請団体とのヒアリングを踏まえ審査会議が行われ、本理事会への推薦事業が確定したため採択について決議願いたいこと、今回の公募には20団体20事業（申請総額約10.3億円、予算5億円）の申請があり4事業（申請額合計約2億円）の推薦を受けていること、その内訳は「資金支援の担い手育成」、「民間公益活動を実施する担い手育成」の各2事業であったこと、今回採択に至らなかった団体に対しては、丁寧なフィードバック等を行っていくことなどの説明があった。

続いて、大川事務局長より、資金分配団体経験を有する団体からの応募が多かったこと、審査会議では、申請事業の規模や成果創出の実現可能性、それらの運営にあたって実効性のある体制が確保されているか否か、対象領域での実績等を踏まえた議論が行われ推薦を受けていること、事業コンセプトの明確化、より実践的かつ波及効果の高い支援内容の構築、活動支援団体に求められる役割の理解促進等が今後の課題であり、次回公募に向けて説明・フォローアップを強化していくことなどの説明があった。

これに対する質疑応答は以下の通り

- （鵜尾理事）支援対象団体の能力強化や行動変容といった成果をいかに指標化するかが重要。総合評価の結果等と活動支援の取り組みを連動させることで、活動支援団体が本事業に与える資金的支援に止まらないポジティブな効果をより明確に示すとともに、評価の質・水準も引き上げることが可能になるのではないか。また、活動支援団体同士の横断的かつソーシャルセクター、とりわけ休眠預金活用事業での経験・実績をベースにした高度な学び合いは、資金分配団体としての役割におけるものとは異なる、より高度で専門性の高い知見・ノウハウを共有する場として機能する可能性がある。

（岡田専務理事）活動支援の取り組みを通じて、特に各地域での新たな資金分配団体の創出につなげたい。これは成果指標にもつながる話であり、その意味では、今回採択された「資金支援の担い手育成」を明確に目的とする2団体に期待している。JANPIAも連携・協力しながら、その取り組みを後押ししていきたい。

（大川事務局長）活動支援団体同士の学び合いは当初から重要だと考えており、現在は定期的な意見交換会を通じて、学び合いの場として有効に機能している。これは、資金助成を伴わない支援の在り方等の共通課題の共有に加え、JANPIA

自身の制度設計や見直しにとっても有益である。今後は、こうした場や事業を通じて、中長期的な成果や波及効果を可視化し、総合評価の中で適切に捉えていきたい。

(鵜尾理事) 活動支援団体の取り組みは、JANPIA の戦略性も踏まえつつ、対話を重ねながら共同で進めていく性格が強い。助成期間中は、単なる助成先ではなく、JANPIA のパートナーとして連携しながら取り組む関係性を今後も継続させられるとよい。

以上の質疑応答の後、決を採ったところ、異議なく可決承認いただいた。

## 第2号議案 2025年度 緊急枠（第2次）資金分配団体選定の件

岡田専務理事より、資料第2に基づき、2025年度緊急枠（第2次）の選定について、審査委員各位による申請書類一式の手元審査及び申請団体とのヒアリングを踏まえ審査会議が行われ、本理事会への推薦事業が確定したこと、3事業の内、2事業の推薦を受けたが、うち1事業は条件付きとなっており申請団体と事務局で協議を行っているところであるため、本理事会においては1事業の採択について決議願いたいこと、今回、当該1事業が採択となった場合の助成総額は約6千万円であり、2025年度の緊急枠の予算残額は約29億円となること、現在協議中の申請事業については、協議完了後に改めて決議を提案すること、今回採択に至らなかった団体に対しては、丁寧なフィードバック等を行っていくことなどの説明があった。

続いて、大川事務局長より、本理事会において決議願いたい1事業については、申請団体の休眠預金活用事業における実績はないものの、緊急性や当該分野での専門性・実績が評価されており、JANPIAも伴走支援しながら成果創出を図りたいことなどの説明があった。

これに対する質疑応答は以下の通り

- (鵜尾理事) 申請団体がホームページを持っていない場合があると思う。審査における一般論として、その有無のみで実行力を判断すべきではない一方で、団体の実態や活動内容をどのように把握・評価するか、今後一定の整理や考え方を持っておく必要があると感じている。
- (内田助成事業部長) 実際に、法人化直後で情報整備が十分でないケースもあったが、対象領域での実績があることを確認し、また任意団体としてのホームページで状況を確認すること等もあった。
- (鵜尾理事) 審査要件とするものではないが、休眠預金の性質を踏まえると、団体の概要や体制が外部にも分かる形で発信されていることが望ましい。
- (大川事務局長) 情報公開は資金提供契約書上義務であり、必要なものはホームページを通じて公開いただけるよう、JANPIA としてもしっかりフォローしていく。

以上の質疑応答の後、決を採ったところ、異議なく可決承認いただいた。

## 8. 報告事項

### (1) 業務運営の状況全般について

大川事務局長より、2026年1月下旬に休眠預金等活用審議会関係者等との意見交換会を開催し、出資事業や総合評価の速報版等を題材に議論を行う予定であること、今後 JANPIA の次年度事業計画及び予算を策定し、同年3月には休眠預金活用推進議員連盟総会・審議会での議論を経て内閣府に認可申請すること、あわせて次の制度の5年後見直しに向けた議論も進めていくことの説明があった。また、出資事業について、第1号案件として子どもの支援分野の事業者への出資が決定していること、2025年度公募結果は来年夏頃の公表を見込んでいること、その他、ワークショップ、ギャザリング、シンポジウム、メディアツアー、企業とのマッチング会など各種イベント及び関連する取り組みを実施・継続しており、情報発信や連携強化に取り組んでいることなどの説明があった。

これに対する質疑応答は以下の通り

- (鵜尾理事) 各種イベントを通じて、JANPIAに対するソーシャルセクター側の受け止め方やコミュニケーションの質が大きく変化してきていると感じる。単なる関係者ではなく、課題に共に向き合う仲間として受け入れられつつあることは、これまでの取り組みの積み重ねによる成果である。今後も積極的な参加や発信を続けていくことが重要。また、JST-RISTEXとのコラボレーションは大きな可能性を秘めており、科学技術や最先端研究を社会実装する「ソーシャルR&D」の観点からも、民間公益セクターにとって非常に重要な取り組みで、今後の展開を大いに期待している。

以上をもって、ZOOMを利用した第82回理事会の議事は、終始異状なく本日の議事をすべて終了したので、議長は出席の理事にその協力を感謝し、14時00分、閉会を宣言した。

上記の議事の経過及びその結果を確認するために、議事録署名人は、次に記名押印する。

2026年1月16日

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構

議事録署名人 (理事長)

二 宮 雅 也

印

以 上